



はれるんマガジン

～気象・地震に関わる素朴な疑問に答えます～ 発行：福岡管区気象台

はれるん通信が先生方向けにリニューアル！！

新年を迎え、先生方も児童・生徒の皆さんも各学年のゴールに向かって、気持ちを新たにしておられることと思います。

さて、平成25年7月に産声を上げた「はれるん通信」も5歳となり、内容を一新することになりました。これまでは主に小学校の児童を対象にした気象や地震などをテーマとしたお話、また、自然科学をより身近に感じ、いつでも読んでもらえるような壁新聞をイメージして作成していましたが、小学生には内容が難しいという声を多くお聞きしました。一方で、小学校の教育に疎い私たち気象台職員も、どのようにすれば子どもたちに理解してもらえるか、興味を持ってもらえるか私たちにできることを考えてきました。その結果、まずは先生方に気象や地震などについて興味を持っていただき、先生方のお言葉をお借りして子ども達に話しかけたり、疑問に答えていただいたりするのが最も効果があるのではないかと考えて、「はれるん通信」の内容を一新することにしました。このため、名称も「はれるんマガジン」と変更しました。

今号からスタートする「はれるんマガジン」は、気象や地震などに関連して身の周りで起きる現象の「どうして？」に答えられるような読み物を目指したいと考えています。ご自身の日常生活や、子どもたちが不思議に思っていることや素朴な疑問などがありましたら、ご遠慮なくお知らせください。いただいた疑問や質問は、「はれるんマガジン」などを通じて、ご回答していきたいと考えており、先生方のお知恵をお貸しいただきながら、内容の充実を図りたいと思います。

レイアウトはこれまでのような壁新聞形式ではなく、シンプルな構成の読み物とします。また長さについても、テーマに応じてその都度変わりますが、長くなる場合には節に分けるなど読みやすくなるよう工夫したいと思います。形式についてもご意見がありましたらお知らせください。

今月の素朴な疑問

冬は乾燥に注意 一でも冬に乾燥するのはどうして？一

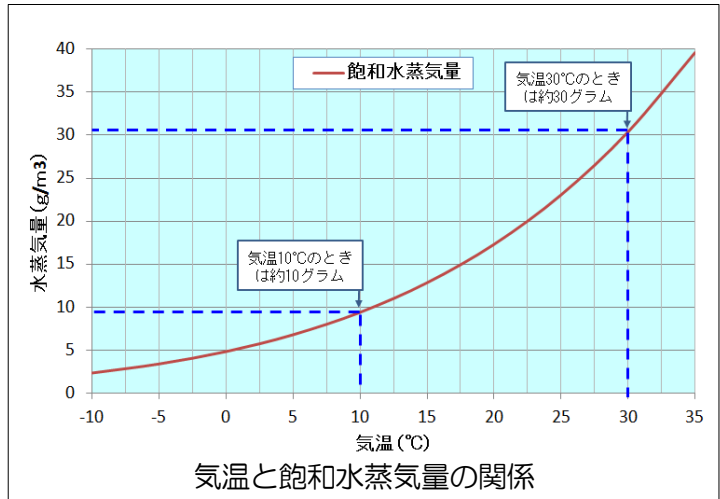
乾燥すると良いことも悪いこともある

本格的な冬となり、空気が乾燥しています。空気が乾燥すると、洗濯物が良く乾く反面、肌や喉など体には良くないと言われています。特にインフルエンザのウィルスは乾燥を好むそうです。また、火災が発生しやすくなり、一旦発

生すると燃え広がって大きな火事になる危険があります。また、アクリルのセーターなどを着ていると、ドアのノブに触れた瞬間にパチッと音がして、痛い目に遭うのも空気が乾燥しているときです。

空気中の水分(水蒸気)の正体は

どうして冬になると空気が乾燥するのでしょうか。これを理解するためには、空気に含まれる水分について理解することから始める必要があります。少し難しいかもしれませんが、なぜ冬に乾燥するかを理解するためにはここが大切です。



水蒸気というのは気体の状

態の水(H₂O)で無色透明、無味無臭で目には見えません。温泉地であちこちから立ち上っている湯気は実は水蒸気ではなく、小さな液体の水滴がたくさん集まって白く見えているものです。沸騰したやかんから立ちのぼる湯気や、空に浮かぶ雲も同じです。

では水蒸気はどこにあるのかというと、私達の身の周りの空気の中に含まれています。気体なので目には見えません。空気の中に含むことができる水蒸気量は限度があって、この限度は気温によって大きく異なります。気温が高くなるほど多くの水蒸気を含むことができます。逆に気温が下がると水蒸気は少ししか含むことができません。

冬乾燥するのは季節風のせい

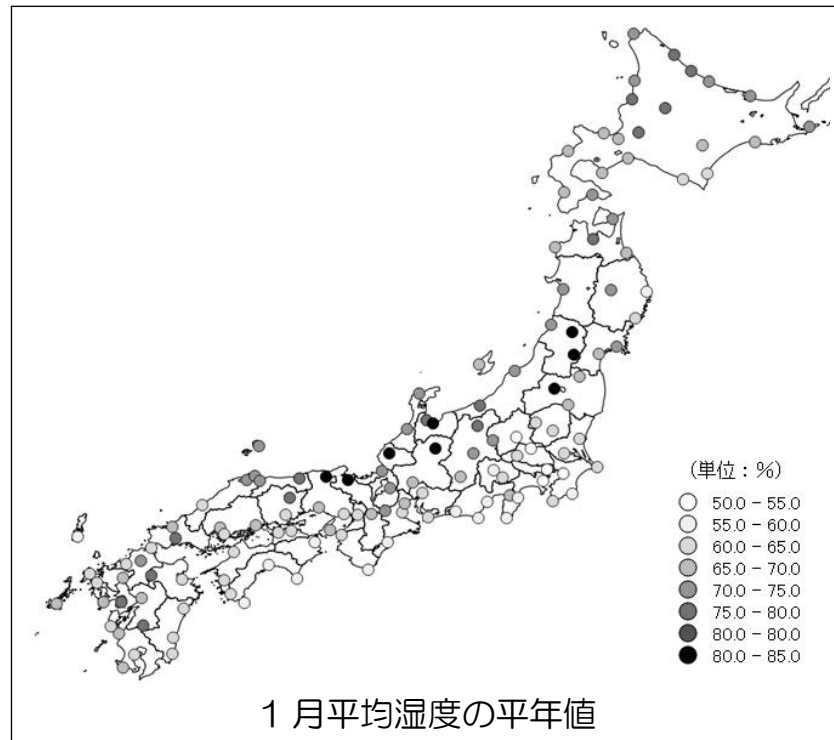
日本付近では冬にはアジア大陸から北西の季節風が吹きます。冬の季節風はアジア大陸の奥地、モンゴルやシベリアからやってきます。シベリアは南極大陸並みに冷え込むことがあります。気温が低いということは、含むことができる水蒸気量が少ないということになります。この冷たくて水蒸気が少ない空気が季節風に乗って日本にやってくるのですから、冬は乾燥しているのです。

地域によって乾燥の程度が違う

季節風が日本までやってくる間に海の上を通過します。ここで、海から蒸発した水蒸気が追加されるので、少し湿った空気になります。このため、日本海側の地方では湿った空気が山にぶつかって雲ができ雪が降ることがあります。富山県や新潟県など北陸地方ではたくさんの雪が降ります。福岡県の沿岸部で

冬に曇りの日が多いのはこのためです。

しかし、雪を降らせた後の空気は再び水蒸気が少なくなり乾燥します。風下となる太平洋側の関東地方や宮崎県では冬は晴天が続いて、空気がカラカウに乾燥しています。福岡県から関東地方や宮崎県などに旅行するときはマスクで乾燥した空気から喉を守るような対策が必要です。



暖房した室内はカラカウに乾燥

冬は屋内をエアコンなどで暖房しますが、これが屋内をさらに乾燥させる原因になります。冷たい空気を暖めても含まれる水蒸気の量は変化しませんが、温度が上がることで含むことができる水蒸気の量が多くなり、これと実際の水蒸気の比率(これを湿度といいます)が下がります。もともと水蒸気が少ない空気を暖めるため、室内は湿度が下がってカラカウに乾燥してしまいます。

一方、石油ストーブは石油が燃えるときに熱だけではなく水蒸気と二酸化炭素が発生します。このため、ストーブにやかんをかけていなくても、ある程度は乾燥を防ぐことができます。但し、二酸化炭素が増えるので時々換気をする必要があります。また部屋の隅などの結露には注意が必要です。

いかがだったでしょうか。冬に乾燥する理由がお分かりいただけただけでしょうか。これの応用として、夏にじめじめと湿っぽくなることも理解することができますが、この話は夏までとっておくことにします。

ご意見をお寄せください

新しい「はれるんマガジン」にご意見をお寄せください。また、素朴な疑問や質問を募集します。電子メール、Fax、あるいは郵便（はがき、封書）で下の宛先までお送りください。お待ちしております。

編集後記

今回は前半にリニューアルに関する記事があったため少し長くなってしまいました。車のドアに触れた瞬間のパチッ（静電気）は嫌なものです。1年中で最も寒い季節です。家族で鍋を囲んで湯気を立てると、美味しいものが食べられ、体が温まり、そして部屋の乾燥も防ぐことができ、まさに一石三鳥です。

問合せ先

〒810-0052 福岡市中央区大濠 1-2-36

福岡管区気象台はれるんマガジン編集部（防災調査課）

Fax：092-725-3163 電子メール：fk-kanku@met.kishou.go.jp



次回の発行は2月中旬頃の予定です。